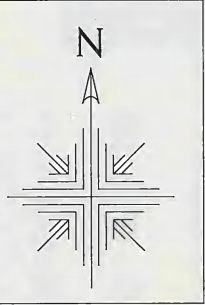


「井立池」ため池災害ハザードマップ

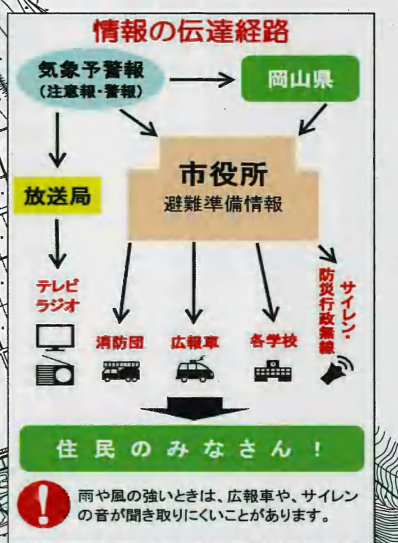


マップの色分けと浸水想定区域の見方

浸水した場合に想定される水深	浸水の目安
2.0m以上の区域	●2.0m以上
1.0m～2.0m未満の区域	●1階の軒下までつかる程度……2.0m
50cm～1.0m未満の区域	●大人の腰までつかる程度……1.0m
20cm～50cm未満の区域	●大人の膝までつかる程度……50cm
20cm未満の区域	

地図凡例

	ため池
	避難所
	洪水到達時間



避難場所・連絡先

氏名	連絡先
避難場所/	
家族の集合場所/	
家族の連絡先	

避難場所	電話番号 (市外局番0865)	所在地
北川小学校	65-0109	走出4102-1
小北中学校	65-0710	甲弩1810-3
北川公民館	65-2126	走出4053-5
上井立公会堂		走出2518-1
かさおか古代の丘スポーツ公園	65-2100	走出3478-4

縮尺 1:13,000 (A3用紙印刷時)

ため池諸元	大砂止池	うなぎ池	井立池	決壊時洪水量
堤高	3.8 m	3.1 m	6.0 m	
貯水量	5,101 m ³	4,159 m ³	92,389 m ³	101,649 m ³

◎このマップには、ため池の堤防が決壊した時の洪水等に備えるための情報が載っています。

○避難場所 ○想定される浸水の範囲と深さ ○洪水の到達時間

※必ずしもこのマップのとりの被害が発生するとは限りません。有事の際には、市の防災情報や避難情報に従って避難するとともに日頃から地形を確認し安全な避難に役立ててください。

○浸水想定区域について
「浸水想定区域」は、ため池の堤防が決壊した時の「浸水区域・深さ」を表示したものです。

○洪水到達時間
「洪水到達時間」は、ニタコンサルタント(株)のため池氾濫解析ソフト「SIPOND Professional版」で解析した「洪水到達時間」を表示したものです。

この図面はニタコンサルタント(株)のため池氾濫解析ソフト「SIPOND Professional版」にて国土地理院「国土基盤情報5mメッシュ標高、10mメッシュ標高」を使用して行った簡易氾濫解析の結果を出力し、地形図2500に重ね合わせて表示したものです。

1. 日頃のため池管理

●ため池の草刈

堤体上の雑草は、ため池の亀裂や陥没、変形、モグラの穴などの変状を確認する上で妨げになります。

年に数回草刈りをし、樹木類は幼木のうちに必ず伐採して、ため池をきれいにしましょう。

●漏水の確認

漏水等の確認のため定期的な巡視を行いましょう。漏水があっても直ちに危険ということにはなりません、流水に堤体の土が混じり濁っている場合は特に注意が必要です。

貯水位を下げ、市へ相談してください。

●余水吐の管理

余水吐はため池の規定水位を保つための施設であるため、余水吐に土のうや材木等で堰上げをし、水位を上げることはため池の決壊を招く恐れがありますので、絶対にやめましょう。

また、余水吐に流木やゴミがある場合や草等が茂っている場合は、洪水時の流水を妨げますので、日頃からごみ等の除去をしましょう。

●貯水位の適正な管理

長期間にわたり水位を下げておくと堤体に亀裂が生じることがあり、この状態で急激に水位を上昇させると浸透水で堤体が壊れる場合があります。

逆に、満水状態から急激に水位を下げると堤体がすべりを起こすことがありますので適正な管理をしましょう。

**ため池の異常をいち早く報告しましょう。
地域でため池を管理しましょう。**

- 大雨や局地的豪雨、地震があった場合は、十分に注意しながらため池の監視を行ってください。

- 現地で行動する際は、安全確保のため、必ず2人以上でおこなってください。



**異常に気がいたら笠岡市建設管理課へ連絡してください。
(0865) 69-2146**

3. 災害時の備え・注意点

家庭内では

- 気象情報や、防災関係機関等の広報をよく聞いておきます。
- 状況によって、遠出や外出は中止します。
- 避難場所について再確認します。
- 勤務先にいる家族などと連絡をとり、非常時に備えます。
- 家財道具・食料品・布団・衣服など生活に欠かせないものを、安全な場所へ移動します。



用意しておくものは

- 3日以上以上の非常食（調理不要なカップ麺やレトルト類）、飲料水を用意して、断水や濁り水に備えます。
※飲料水は乳幼児や病人がいる家庭では特に必要です。
- 懐中電灯を家族にに応じて準備します。た、正しい情報を聞くためにラジオの用意もします。
※予備の電池も忘れずに。
- 大工道具も用意しましょう。

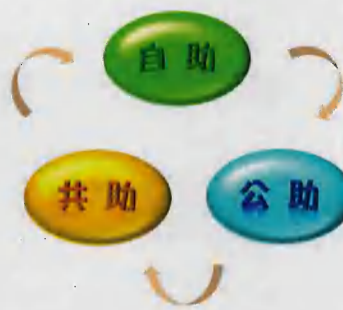


事前の情報収集で、余裕を持った行動をしましょう！

2. 地域で防災について話し合い

自助・共助・公助

災害は必ず発生します。日ごろから正しい防災知識を身に付け、地震や風水害などの様々な災害に対する備えをしておくことが必要です。また、災害による被害を減らすためには、「自助・共助・公助」



●自助とは、

住民一人ひとりが自分自身を災害から守ることで

●共助とは、

地域社会で助けあい、お互いを災害から守ることで

●公助とは、

国・県・市など行政が住民を災害から守ることで

※近助とは、近所の声掛け、助け合い。

まずは住民の皆さんが「自分たちの地域は自分たちで守る」という防災の基本に立ち返り、自主防災組織の活動や地域の防災行事に積極的に参加して、助け合いの心あふれる安心で安全な地域社会をつくっていきましょう。



大雨によるため池の決壊

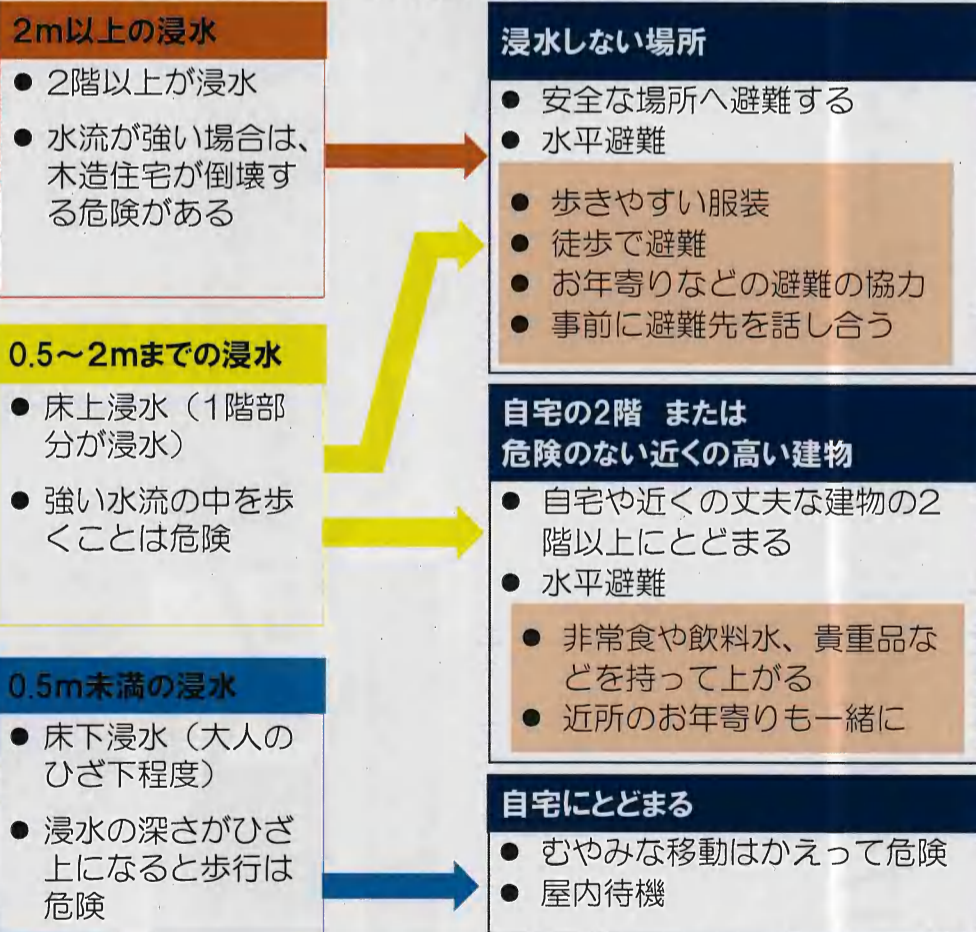
地域によって異なりますが、1時間に20ミリ以上、また降り始めから80ミリ以上の雨が続いたら、災害の危険性が高くなります。浸水対策を含め、十分な警戒が必要です。

地震によるため池の決壊

地震による決壊は、地震の揺れを原因として一気におこる場合と、しばらく時間が経過した後おこる場合があります。

4. 状況に応じた避難をしましょう

浸水の深さによって、避難方法は異なります。いざというときにどのように行動するか、家族や地域で確認しましょう。



笠岡市緊急情報携帯メール配信サービス

笠岡市が登録者に対して行う携帯電話向けサービスです（登録無料）。

配信内容

- 災害に関する情報
- 災害発生に関する情報
- 警報の発令及び解除に関する情報
- 笠岡市災害対策本部等の設置及び解散に関する情報
- 災害時の交通情報その他の必要と思われる情報

お申込み

携帯メールで、右記QRコードを読み込みまたは、e-kasaoka@xpressmail.jpへ空メールを送信してください。

その後に登録用メールが届きますので、必要事項を入力して登録してください。

※迷惑メール対策として、個別に特定の設定を行っている場合は、ドメイン指定をしてください。
許可するドメイン：xpressmail.jp

